

令和4年度 事業報告書

1 概況

令和4年度の日本経済は先の新型コロナウイルス感染拡大の影響を残しつつも、企業・国民の経済活動が徐々に活発化し、緩やかに回復してきた年度であった。

当財団では、新年度より組織改編が行われ支部制の廃止および各拠点における担当常務制の制定が行われた。また、新たな移転案件である、とちぎ健診プラザについては今年度無事着工の運びとなり、令和5年8月に竣工、令和6年1月に小山市での新築移転開業を予定している。

新型コロナウイルスの影響については徐々に緩和傾向であったが、当財団の職員はじめ、受診者への感染拡大防止対策を引き続き実施し、各拠点の施設および巡回現場でのクラスター発生防止に努めた。

また、各拠点では年間を通じて受診者数の平準化を目標に、全ての月での黒字化を強力に進めている。

今年度についても上記の取り組みが奏功し、徐々に赤字月が解消しており平準化による顧客サービスの向上につながっている。

これらの各拠点の取り組みにより、結果的に年間の事業収入(税抜)は101億円を超える事業収入を確保することができた。

2 健康診断事業・診療事業

【 新宿健診プラザ 】

新宿健診プラザは、平成30年1月の施設新築移転以来、施設収容能力の拡大や業務の効率化等、大型健診施設の運営ノウハウの積み上げを図るとともに、接遇に注力した健診サービスの提供により、他の健診機関との差別化を一貫して行ってきた。

施設移転から5年目の節目にあたる本事業年度では、その基本方針を継続し、受診者の満足度を高め施設評判を着実に上げることにより、年間受診者数は昨対比+6.8%増を達成、業績良好な事業年度となった。

【 伊勢崎健診プラザ 】

令和4年度は、新型コロナウイルス感染が落ち着きを見せた年度当初より、施設健診における更なる前倒し受診勧奨の強化等が奏功、受診者が堅調に推移し年間の施設来院者数は昨対比+6.8%増を達成するに至り、良好な施設運営となった。

巡回健診に関しては、大手事業所との契約を解消した影響により減収となったが、連動する諸費用を大幅に減少させることにより利益構造の改善に繋げることができた。

【 とちぎ健診プラザ 】

現施設での通期運営としては最終年度となる令和 4 年度は、施設移転オープン(令和 5 年度予定) 良い形で繋げるため、①施設健診の前倒し受診の勧奨強化および受診者顧客単価引き上げのためのオプション検査の積極的な勧奨、②施設未予約者および巡回健診未受診者への勧奨強化を継続し、月間における施設受診者の平準化に取り組み、狭小施設の効率的な活用を実践した。

また、巡回健診においては、公益財団法人 JKA からの補助金を受けて、胃胸部併用デジタルX線検診車1台を令和 4 年 8 月に導入し運用を開始した。

【 山形健康管理センター 】

令和 4 年度では、定期健診の午後実施定着化を積極的に進めたことにより、午前の生活・ドック受診者の増加に奏功、施設受診者数は昨対比+10%増を達成することができた。

また、一般財団法人日本宝くじ協会の助成事業により胃胸部併用デジタル X 線検診車を新規導入、令和 4 年 9 月より運用を開始した。

【 各拠点の診療事業 】

健診・人間ドック実施後の二次検査の実施、および外部専門医療機関との連携等に注力し、健診後のフォロー体制の充実化に努めた。

以上